

観賞用、薬用、アロマ用に利用される植物が議題に

3月13日～25日、第15回ワシントン条約締約国会議がカタールのドーハで開催されます。トラフィック イーストアジア ジャパンは、締約国会議に向けて数回のシリーズでワシントン条約関連情報を各マスメディア関係者の方々に配信しています。会議に関する正確な情報の入手や取材にお役立てください。また、ご不明な点や詳細に関してはトラフィックまでお問い合わせください。

見る 飲む 嗅ぐ

植物は21の附属書改正提案

観賞用、あるいは薬用・アロマティック植物として利用される種の提案が主流。樹木種では、香料となる南米の2種が提案されています。

マダガスカルにも注目

21のうち14提案がマダガスカルからのもので、主に盆栽などの園芸や鑑賞用とされる多肉植物など。中には、園芸・鑑賞用や地域の人々によって薬用ハーブとして用いられているものもあります。

ローズウッド *Aniba resaeodora* 提案 29
注釈付きで附属書IIに掲載(提案国:ブラジル)

南米アマゾンなどの熱帯林の奥地に生育
高さ30mに達する、成長が遅い樹木種。

ボアドローズともよばれ、この木からとれる芳香をもつ「リナロール」オイルは高級な香料とされる。日本でも香水やアロマセラピーに使われ人気が高い。精油以外の用途はわずかだが、家具やカーペットなどにも。

その優れた香りから、本種の天然木からのリナロールの需要は高い。

生育地の広範に渡り、アクセス可能な立ち木はほとんど伐採。成木が少なくなった近年では若木も伐採されるようになってきた。深い森にだけ残されている。ブラジルでの精油蒸留(85%が輸出用)は非効率・違法におこなわれていることさえあった。

IUCNレッドリスト(2008): 絶滅危惧種(EN)

トラフィックはこう考えます

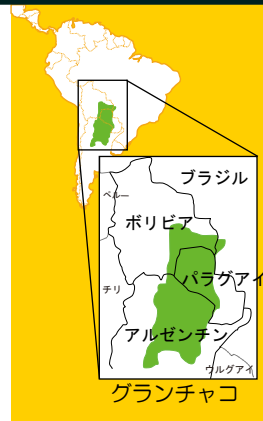
南米産、世界に「香り」を供給する香木2種は附属書への掲載が必要だと考えています。

グアヤクウッド *Bulnesia sarmientoi* 提案 42
注釈付きで附属書IIに掲載(提案国:アルゼンチン)

ユソウボク、パロサントともよばれる。南米4カ国にまたがるグランチャコ地域固有。高さ10～20mに達する樹木種。生育は遅いが切り株から再生できるため二次林、再生林などで見られる。木材は腐食に強く、樹液には芳香がある。

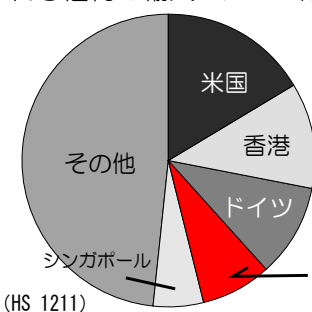
「グアヤコール」という香り高いエッセンシャルオイルは化粧品や虫よけなどに。家具、床材、船舶部品に。日本人の使う香水や芳香剤などにも広く用いられます。精油蒸留の残渣は樹脂塗料、幹は炭、葉は薬用など。

2008年にアルゼンチンはこの種を附属書IIIに掲載し、取引管理に効果あったとされます。しかし、生育域、特にアルゼンチンやボリビアで継続している土地利用の転換(農業や牧畜)による生育地の破壊と、伐採の両方が脅威に。

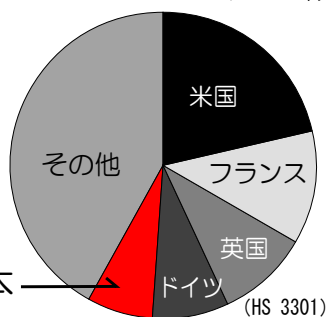


日本人は香り好き: 世界における日本の輸入

▼香料、薬用などに用いられる植物の輸入(2007年)



▼精油などの輸入(2007年)



Copyright © United Nations, 2009 UN Comtrade Database

トラフィックジャパンのここに注目!

暮らしに彩りを与える植物の未来はいかに?

COP15特集ページ <http://www.trafficj.org/cop15/>